



閏四月廿四日

內外新聞

第二

第七日目每二出板  
知新館

西垣文庫

文庫 10
7348
2



時文庫10  
7348  
2

神戸新聞 第五月廿三日  
我壬月朔日

英國ス子ラー名船ノ著シテ支那國ニ在ル友

人ヨリ左ノ事件ヲ告來レリ今日ハ英國女

王ノ誕生タリ日ナルニ悲カクシムヘキ新聞ヲ得タリ

上海名地ニアルオーストリア名地ノ殖民ドモ

彼國ノ太子ノ殺害セラレシヲ聞ケリ此太

子曾カッテ国民ノ移往スミヲ見物ノ爲メ恐怖シナ

ガラ上海江來リシ人ナリトソ又アイルラ

ンド名地ノ惡黨共至當ノ刑ヲ受ケシヨシ



テ一

今日ドーカラスニテ次ノ新聞ヲ得タリエ  
デンボルクニ在ル英國ノ太子ヲセド子  
地ノ近辺ナルコロンタルフト云フ所ニテ  
殺害セントノ企アリシト

又政府ノ傳信機ニテ次ノ新寫ヲ得タリ尚  
委シキ事ハ今晚ニ至テ知ラルベシ右ニ記  
セシ英太子。コロンタルヲ消遙セシ折一  
人ノ乞食鳥銃ヲ以テ太子ヲ發射セシニ此  
玉背ニ中リ脇骨ヲ經テ終ニ胃臟ノ外ニ落

着ケリ未夕此玉ヲ脱ク事能ハス患者甚夕  
痛ミヲ覺フ然カシハ未死生ヲ弁セズ  
ト

夕七時半ノ報告ノ趣ニテハ英太子ノ痛ミ  
未夕甚タシトイヘドモ漸治療ノ効アリシ  
ト再ヒ第五月十二日我四月十八日附ノ報文ニテ  
次ノ事件ヲ聞得タリ英太子ノ腹中ニアリ  
シ銃玉拾別ノ痛ミナクシテ脱出シ得タリ  
後子漸快氣シテ再ヒ公務ヲ司ニ至レリト

佛軍艦ドブリークス名船將ヨリ告文

先日船將ボルロツク名淺深ヲ測量セシ後  
モ大坂川口ノ流勢漸相變シ且堰ニ於テ居  
留地ヲ撰ム儀ニ付而ハ彼是議論不穩次第  
モ有之依之先達而堰ノ港内ヲ側リシ通り  
天保山ヨリ川口之船路ヲ能吟味シ此ヲ大  
坂兵庫在留ノ人々江心得サセ候ハガ可然  
ト存候在留ノ人々此儀ヲ希望スルニ至ラ  
シメニ力爲メ此一通ヲ大坂兵庫ノ役所ニ

指置ント存候此談事ニ就而ハタトヘ仮令一句ノ  
余モ無難ニシテ經過スト雖忽チ又危難ヲ  
生スルニ至ルヘキヲ人々江説得スヘキ事  
過日軍鑑トブリークス名船數日天保山ニ碇  
泊セシニ數多ノ日本船ノ此辺ニテ難ニ逢  
シヲ見タリ其時人民ノ溺レシヲ知レリ  
今日正九ツ時名米田軍鑑オナイダ名中帆柱  
ニゼオルジ名人ノ旗ヲ揚テ凡四分時ノア  
イ  
ダ大砲廿一發シテ英國女王ノ誕生日祝セ

二  
三  
リ英ノコンシユル館ハ勿論米國コンシユ  
ル館其餘居留地方ニ且港中碇泊ノ船ホモ  
尽ク祝旗ヲ揚タリ英國ノ政ヲ執ル人々ハ  
今日女王誕生日ニ就テ益國威ヲ輝ンコト  
ヲ欲ルナルベシ

今朝英國軍鑑セルペント名船著シ第三月十  
三日附ノ本國ヨリノ書翰且本月廿一日附  
ノ横濱ヨリノ書翰ヲ持來レリ  
横濱ヨリノ新寫ハ江戸ニ於テ強勢ナル會

津取沙汰ノ外他事ナシトソ

先日或人ヨリ書面ヲ以テ小舟競ボート乗ノ儀ヲ  
企シト雖ライフル競ボート發ノ儀ヲ一紡同意セ  
リ當地ノ穩カナラサルニ就而ハ我々一同  
常ニ砲器ヲ所持スルヲ管要ト存ス佐其術  
ヲ知ラサレハ忽不用ニ附スベシ其修業方  
ニ就而ハ夕刻暇ノ時ヲ得テ談シミナバ暫シ  
ニシテ得ラルベシ然ル上ハ大ナル快樂ノ  
一器トモナルベシ

當地水害甚シクシテ大雨ノ爲ニ墓地近傍  
ノ砂土ヲ流シ込カ故ニ政府ニ於テ木石ノ  
類ヲ以テ段ヲ築キ居留地東方ニ有川ヲ堰  
セントノ企アル由ヲ或人ヨリ寫ケリ此儀  
ハ甚タ大切ノ事ニシテ速ニ是ヲ取行ンコ  
トヲ願フ所ナリ若シ猶豫シテ雨降りノ時  
ニ至ラハ暴雨ノ爲ニ墓地ヲアバカレ近頃  
葬リシ死体ヲ衆人ニ濕スニ至ランカト甚  
夕心痛セリ

昨廿二日夕五時半頃ヨリ<sup>キキリウ</sup>瘴氣球ヲ揚ケ夕  
リ當地ノ人々甚タ是ヲ驚キ感セリ然ルニ  
惜イカナ夜迄持チ堪ヘザリシヲ

入港物

此頃次第減セリ來ル九月頃迄ハ格別盛  
ニ成ル間ジク毛織物類<sup>ケアリ</sup>縮緬類<sup>チリタ</sup>ホヲ好ム大  
ニ減セリト云ベシ併シ可ナリニ賣レル物  
ハ黒サワイ。毛織ヘンシイ。トルコ赤木綿并  
木綿糸ナリ此木綿糸ハ好ム人モ有リ又價

毛上レリ鼠色木綿ハ此頃日本人ノ向ニハ  
悪シケレトモ外國人ハ米因飛脚船コスタ  
リカノ風軍ニテ三トル余ノ價ニテ買入シ

出港物相庭

生糸 百斤ニ付價

奥州中品 四百三拾兩ヨリ四百四十兩迄

同上品 五百兩ヨリ五百卅兩迄

飯田上品 六百兩ヨリ六百十兩迄

越前 五百兩ヨリ五百廿兩迄

第五月廿三日 我壬月 朔日 追ニ出港セシ高凡

二百箇斗

茶

横濱ニテ買込タル共上中下三等併セ凡四  
万斤斗次第時候切迫セシ故外國人古茶ヲ  
困マントスルノ趣アリ

新茶ハ先ツ第六月中旬トノ見込也

百斤ニ付價

並茶 拾兩ヨリ拾兩ニ步迄

中茶 拾七兩ヨリ拾七兩二步迄  
上茶 廿二兩ヨリ廿三兩迄  
右下茶ハ當時大ニ直下リセリ新茶ノ極下  
茶ハ當時賣物ニ有ト雖價高ケレハ未買入  
人ナシ

生蠟

百斤ニ付十二兩一步ヨリ十二兩三步迄ノ  
價ニテ凡ニ万斤斗買込夕リ當時未夕買入  
サレ僅ノ生蠟アリ

冥東よる此子残 先月廿四日

此サニ。賊徒押領シ宇都宮城攻撃のた免壬  
生城より朝六ツ時六番隊并大砲三挺白砲  
短カキ二挺大山弥助指引にて且怪シ隊右江  
指添發軍引續き大垣藩一中隊大砲一挺兩  
藩都合二百人にて進軍致以所四ツ時分宇  
都宮城邊はて押浩當此變賊兵防禦之ニ免  
左シ城下町江陸臺場築立大砲一門並小銃  
隊にて防戦致以得共間亦之攻落シ城際至



て押寄せ八ツ時頃内外に砲戦嚴く手負死  
人別紙に通りには喧ひ宛敵方に千五  
百人余も有之不容易搦拵に昼迄迄に  
至り賊兵裏道より操出し最初棄落せし墓  
場江乘入り壬生より返り路お絶別して  
苦戦一同相働ひ右に通り賊兵後を振り切  
り以て分隊位宛差出し戦争いよいよは  
弾薬兵糧稀少にお成り且運送し路をお絶  
陳てお不お痛中故一端繰引いたし兩藩共

引揚げ所口を墓場賊兵相固免居ひを散々  
お破りお偽居ひ折柄五番小隊長長州一中  
隊大垣も同断にて本街道より急陳即刻仕  
寄せ發砲お始む宛所因州藩一中隊にて壬  
生城より急援として急陳返路相開き夫よ  
り一度押詰免終に七ツ半時分落城大勝利  
にお成賊徒歩取百人余と負二百人余にお  
見へ以て得共未取り調出来蓋ひ以て逐々申越  
ひ趣にて被ひ右につきお残死人数を發

發<sup>パッ</sup>おもはる城以御國許江を指出儀何分以  
亦計居下交を我死に墓所を義を当城下に  
報恩寺に中寺へ取りきたる免置以右形行申  
上以以上

五番隊

戦死

上田友輔

手負

美代藤之丞

川崎兵十郎

大廻新八郎

河野伊兵衛

六番隊

戦死

川北六左衛門

戦死

岩城平右衛門

永山覚太郎

西田要之丞

加納次左衛門

伊地知助五郎

築地宗二郎

岩切茂二郎

松井左兵衛

佐藤茂五郎

鶴木吉二郎

同隊手負

野澤七次

抗<sup>カ</sup>龍右衛門

上原八郎

菱刈七之助

有川陽之助

横山勇藏

縁先喜之助

平成彦右衛門

山下喜之助

伊集院小藤二

同隊深手

廻深五左衛門

鎌田喜之助

松元清右衛門

安田仲右衛門

伊藤正二郎

宇岩茂之丞

日高郷右衛門

矢野八二郎

川上彦八郎

且輕隊

戰死 井上伊右衛門

手負 宇都宮岩太郎

本營手負

鳥津式部

種子田左門

外僕一人

右町 宇都宮報知如此以

四月廿八日關東より手紙之字

戰死 内藤金二

有馬藤太

前略江戸夫ハ賊徒鎮撫ニ相成候得共官軍  
著前ニ逃去リ候徳會之賊徒并ニ新撰組ト  
唱ヘ候浪士江戸ヲ脱走シテ野州宇都宮花  
二結城壬生近國所々ヲ押領致居イニ付宇  
都宮應援トシテ彦根藩差越候処初メ流山  
ト申所ニ浪士都合二百人余伏勢有之候ニ  
依テ及戦候所賊徒近藤勇致降伏器械ホモ  
取揚ケ勝ニ乘テ宇都宮マテ押寄セ居候処  
賊徒ヨリ狭歩ニ出逢ヒ大ニ敗走致味方死

人数多有之候然ル所因州土州應援トシテ  
向イ候所壬生ニテ賊ト相戦イシニ是モ同  
ク狭歩ニ逢ヒ敗走ニテ彈藥ホモ賊手ニ取  
ラレ死人モ数多御座候時ニ長州藩一小隊  
大垣藩二十人余薩州五番小队共一ツト成  
應援トシテ出陣ス去ル止日野州ノ内岩井  
村ト申処ニテ賊兵七百人余ト出合相戦候  
処官軍ホ勝歩取首三十余級大砲三挺小銃  
數多騎馬三足右分取ニ流山以然ル処去ル

廿三日岩井村之殘徒五百人余千住ト申宿  
マテ押寄セハ付佐戸原一小隊薩州一小  
隊早速繰出シハ所降伏之ノ心ニテ敵セザ  
ルガ故ニ應接ニ及ハル処弥降伏イタシ候ニ  
付所持ノ大小砲數多騎馬三足鎗四十本斗  
り取上ケ右ノ内二百人余ハ佐戸原預リニ  
相成外三百人余ハ備前藩関係ニ相成申ハ  
薩藩六番一小隊大垣藩一小隊又々宇都宮  
江押寄ル

右戦ノ次第入江以來ヨリ今日迄ノ所置荒  
々涉報知如此御座ル以上

月日

中村某

右同人ヨリ或友人ノ方江贈リシ書状ノ  
写ナリ近頃妄説流行ニ付此實正ノ手紙  
ヲ以テ衆人ノ疑惑ヲ情サシ爲ノナリ他  
日諸君實正ノ事ヲ得玉ハダ速力ニ知新  
館ニテ柳報知ヲ希フ直チニ彫刻シテ萬民  
安堵ノ一助トセン

先ニ彦根軍門江降伏セシ板倉父子ヲ下總  
結城ノ城中ニ於テ斬首セシトノ風評也  
過日秋田侯ヨリ羽州庄内江使者ヲ指向ケ  
討會ノ論ヲ立テシニ庄内ニ於ハ會ヲ討ツ  
ヘキユヘンナシト答フ依テ當時秋田侯ニ  
千三百人余ノ兵ヲ以テ庄内入口島海山ト  
云処追押語ノラレシ夫レニヨツテ羽州龜  
田岩城左京太夫殿日本庄六郷兵庫頭殿共  
其勢合セテ三千人斗出張ストノ風評

大坂ノ新聞

○本月十七日薩島鳳瑞丸ト云フ軍船ニテ大  
監察使トシテ三條大納言殿副トシテ萬里  
小路辨殿東下セラレシ陪從ニハ西郷吉之  
助林玖十郎小笠原唯ハ江藤新平等十リ守  
衛トシテ阿州之兵二百人斗御供十リト云  
○曰幕府ヨリ亞国江注文ニナリシ鉄船ハ已  
ニ先頃横濱ニ着シタルヨシ今度三條殿御  
下向ノ上右船御取入レニ成筈ノヨシ

○大坂鎮基醍醐大納言殿兵庫江御下向アリ  
シ乃千岩下佐次右衛門陪從セント云フ

○今度大坂運上処ニテ大坂ト横濱トノ間ヲ  
通行スル飛脚船ト浪花丸ヲ取立ラレタリ乘  
組人ハ多分英人之由尤取締トシテ薩藩肥  
後七左工門ト云人乗組ヲ命ゼラレ來廿五  
六日ニハ兵糧米千石余モ積デ江戸江下ル  
由便船トシテ外國事務判事大隈八太郎并  
海軍先鋒參謀島團右工門トカ云人モ東下

スト云フナリ

右ノ飛脚船へ便船ヲ願フカ又ハ荷物ノ  
運送ヲ願フ人有ラバ川口運上所カ或ハ  
内平野所松屋町江戸屋平右工門津屋重右工門津屋重右工門兩家ノ  
者江申出セトノ事ナリ

告文

由良彌太二

私儀大坂御運上所ノ傍ラニテ借馬屋ヲ始  
以ニ付各々様御用被仰下度右馬具儀ハ和  
洋共相備居候間御好ニ應シ可申且馬賣

買毛仕候条此段布告仕候以上

知新館告文

此社中ニ於テハ珍事并ニ諸相庭物ホヲ記  
スノ本意也又館外ノ人夕リ氏功能有事ヲ  
衆人ニ示サンカ或ハ書籍ホヲ彫刻セント  
欲セララル、片ハ此社中へ御示談アラバ速  
カニ發梓可致候者也

以上



